

長町界隈

金沢市はかつて加賀藩（封建時代の石川県）の経済的・行政的中心でした。その公的な創設者である前田利家は、後継者たちとともに城を拡大し、江戸時代（1603—1867）の間、周囲の町を封建時代の日本における最大の城下町のひとつに成長させました。その最も繁栄した時期には、10万人以上がここに住んでいました。これは、当時のローマやマドリードに匹敵します。

城を中心におくこの街は、外部に対する防衛と経済的な要素を念頭に置いて設計されました。上流階級はしばしば、城にいる封建時代の君主（大名）に近い位置に広い土地を与えられました。町人は街の端の方に住んでいました。ここ、比較的街の中心近くにある長町は、中級から上級の武士が住んでいた場所です。長町という名前は、字義通りには「長い町」を意味しています。ただ、これはこの地にいた長（ちょう）家から取られたと考えられています。「長」は、長いという意味ですが、「なが」とも読めます。

長町の価値はその稀な保存レベルです。この地は、第二次世界大戦中にあった東京や大阪といった大都市への空襲を含めた、大規模な火災を免れました。このため、狭い通りや、今も使われている用水、侍屋敷の跡といった、江戸時代からの特徴が今も残っています。これらの家屋の多くは、土壁を維持しています。これは、霜や割れから守るために、冬には藁のマットで覆われます。江戸時代の雰囲気を残す長町を歩くことは、金沢と日本の遺産を味わう貴重な体験です。